

# 矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol. 4



発行日：平成 29 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第42回山部会WGを開催しました！

9月8日(金)～9日(土)に第42回山部会WG・勉強会が恵那市・飯田市にて開催されました。今回のWGにおいては、流域再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインの4つのテーマに関して、情報共有と意見交換を行いました。また、勉強会においては、河川敷に繁茂する竹林対策について、天竜川の成功事例を実体験しました。



日時：WG⇒平成 29 年 9 月 8 日（金）、勉強会⇒9 月 9 日（土）

場所：WG⇒岐阜県恵那総合庁舎 5 階 5A 会議室（13 名）、勉強会⇒天竜峡（13 名）

## ◆主な会議内容

### 1. 流域再生担い手づくり事例集について

懇談会も 8 年目をむかえ、流域に視野を広げる必要性から、昨年度までの『山村再生』を改め『流域再生』でスタートすることになりました。今回は、これまでの山部会および川部会ワーキングで抽出された取材先団体から、21 団体を選定しました。山・川に関する取材先は以下の通りです。今後は、取材先担当者の確定と事前検討会を行う予定です。

【山の関係団体】 11 団体

- ・ 鷲流峡（がりゅうきょう）復活プロジェクト ・ なつかしい未来の会 ・ すぎん工房 ・ 敷島自治区 ・ 山恵
- ・ 三州しし守社中 ・ めえーぷるファーム ・ 足助きこり塾 ・ 無門福社会 ・ 和合自治区 ・ (有) ファビナス

【川の関係団体】 10 団体

- ・ 愛知県土地改良区連構成団体 ・ 矢作川天然アユ調査会 ・ 小渡セイゴ水辺愛護会 ・ 矢作川漁業協同組合中和支部
- ・ 古岸水辺公園愛護会 ・ 橋の下世界音楽祭実行委員会 ・ 内藤連三氏 ・ NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた
- ・ 森を再生する会 ・ 環境ボランティアサークル亀の子隊

### 2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、以下の 2 項目の成果と進捗状況について情報共有と意見交換を行いました。

#### (1) 矢作川感謝祭

【経緯】山村と林業の担い手である森林労働者同士の話し合う場を提供する目的で検討を始めた。話し合う場としては、顔を突き合わせた意見交換より、イベントを通じて交流を図る方が効果的だとして、矢作川感謝祭への参加を決めた。

【成果】上流から根羽村森林組合、中流から豊田森林組合、下流から岡崎森林組合（岡森フォレストーズ）が参加するなど、街の人たちに林業の一端を知ってもらうことができた。また、森林組合間の交流が始まった。

【今後の目標】広報や企画、調整、とりまとめを懇談会として取り組む（より多くの懇談会会員が主催者に加わる）。

#### (2) 「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域担い手 100 人ヒヤリング

①進捗状況⇒岡崎森林組合と豊田森林組合の 5 支所に説明と協力要請を行った。

②9 月に岡崎森林組合管内、10 月に豊田森林組合管内のヒヤリングを予定する。

### 3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、蔵治座長より平成 29 年 7 月九州北部豪雨の現地視察結果（林道沿いの崩壊が何に起因する可能性があるのか）が報告されました。

- ・ 影響範囲：福岡県と大分県を中心とする九州北部（特に朝倉市）
- ・ 雨量の記録：3 時間で 400mm、12 時間で 900mm（朝倉市の時間降雨量最大 169mm）
- ・ 流木量の暫定値：21 万 m<sup>3</sup>（空中写真より判読しているため、孔隙などを含んでいる）※東海豪雨の矢作ダムの 6 倍強
- ・ 流木形態：九州北部豪雨⇒多くの支川から筑後川に流れ込む（ダムに集積しない）、東海豪雨⇒矢作ダムに流れ込む。

### 4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、今後の取組みに関して情報共有と意見交換を行いました。

- ①スギダラキャラバンの進捗状況⇒年間 36 回の出勤を予定している。秋田県など県外とのつながりも増えてきた。
- ②木づかいガイドラインの作成依頼⇒まずは山村再生担い手づくり事例集の対象者に協力を呼びかける。
- ③木を使った市民参加型プレイスメイキング⇒安城市では既に実施済、豊田市では 11 月にイベントを行う予定である。
- ④事例紹介⇒岐阜県白川町では上流の山と下流の街を繋ぐ kodama project が行われている。
- ⑤その他⇒長野県針広混交林施業指針（長野県林務部）を紹介するとともに、今後の森づくりについて説明した。

## ◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

### ●流域再生担い手づくり事例集について

- ・愛知県土地改良区連合会を構成する自治体として、流域外の半田市の団体が挙がっている。内容が適当であれば、矢作川流域外でも構わないと思う。その前に、もう一度流域内を調べていただきたい。（洲崎）
  - ▶岡崎市や豊田市に連絡をとり、関係する団体を探してみたいと思う。（山本孝）
- ・橋の下世界音楽祭実行委員会は、豊田大橋の下で行われる野外フェスティバルで、今年で6回目になる。矢作川の川辺に新たな魅力を生み出したイベントとして、是非取材対象に加えたい。（洲崎）
  - ▶現在、山の取材先に含まれているが、川の取材先に含めるべきだと思う。（蔵治）
- ・足助きこり塾は、大工職人をはじめ製材機なども完備していて、山の魅力を「見える化」している。今後、実体験を売りに発展していく可能性を秘めた団体である。（山本薫）
  - ▶近年、すごく発展している団体なので、是非取材対象にしたい。（洲崎）
- ・矢作川沿岸水質保全対策協議会と内藤連三を一緒に取り扱うのは違和感がある。どちらかに絞るべきだ。（蔵治）
  - ▶かつて流域再生を担った内藤連三氏について、取材対象にしたい。（服部）
- ・今後は、取材に向けて取材者の確定と事前検討会を行えるよう、メーリングリストで周知したい。（洲崎）

### ●矢作川流域圏山村ミーティングについて

《矢作川感謝祭に関して》

- ・川辺で森林組合間の交流が始まったのはすごく良いことだと思う。お祭りには、岡崎森林組合、豊田森林組合、根羽村森林組合が一堂に会することができた。（洲崎）
- ・豊田大橋の下は広いので、立地条件が良いと感じた。周囲に人家がないので前夜祭から盛り上がる。（今村）
  - ▶前夜祭も恒例行事化するとよい。（洲崎）
- ・丹羽さんの文章に「広報や企画、調整、とりまとめは懇談会として取り組もう」と記されている。これはとても良いことで重要なことだ。（山本薫）
- ・来年は、川や海のメンバーにも早めに周知して、全員参加のイベントにしたい。（高橋）

### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・泥岩と花崗岩では崩壊の仕方に違いがあるのか。（服部）
  - ▶堆積の様子をみると、粒径的にみても風化花崗岩で砂が多いように感じ、崩壊の仕方が違うと感じる。（中田）
  - ▶現時点では断定できないが、傾向はあると思う。（蔵治）
- ・私は林道を専門としているが、林道の線形が尾根筋にあってとても理想的だ。その線形が尾根を逸れると、崩れやすくなる。それでも今回は崩れていることから、豪雨のすさまじさを感じる。（小島）
  - ▶尾根の線形と外れた林道は、多くの場所で崩壊がみられた。（蔵治）
- ・地質と崩壊の相関については、雨域の影響の方が大きかったのではないか。（中田）
  - ▶指摘の通りで、尾根部において特に雨の量が多かったものと推察される。（蔵治）
- ・あまりに崩壊面積が大きいため、治山堰堤とかそういうレベルで何とかなる場所ではない。単なる災害復旧であれば、激甚災害と称して国費をつぎ込んで治山堰堤を造ればよいが、こうも毎年全国で起きるようになっては、お金がいくらあっても足りないという印象をもった。そろそろ、新たなモデルをつくる必要があると思う。（蔵治）

### ●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・いなかとまちの文化祭（11月25日）では、豊田市駅のペDESTリアンデッキで根羽村森林組合、矢作川水系森林ボランティア協議会、森の女子会が木づかいを展開する。また、同時期に松坂屋の市民活動センターでも豊田森林組合の木づかい推進が行われている。そのため、流域の木づかいを丸ごと体験できる良い機会になると思う。（洲崎）
- ・とよたまちさとミライ塾のプログラムは、ネットで閲覧できて、申し込みもできる。（洲崎）
  - ▶豊田市商業観光課が窓口だが、大変すばらしい取り組みだと思う。プログラムの説明会は、主催者が集まって1件ずつ3分くらいでプレゼンする。事務局はこいけやクリエイト西村さんが担当している。（今村）
- ・「木づかいガイドライン」等の原稿作成準備についての協力依頼はそろそろ行うのか。（蔵治）
  - ▶近いうちに「依頼済み」と言えるようにしたい。（今村）



# ～天竜川における勉強会～

## ◆目的

今回、勉強会の舞台となる天竜川では、「天竜川鷲流峡（がりゅうきょう）復活プロジェクト（代表 曾根原宗夫さん）」の取り組みにより、放棄竹林の有効活用に成功しています。特に、「竹いかだ」や「竹ボイラーによるお風呂&シャワー」は有効活用の代表例と言えます。その実績を矢作川流域圏懇談会として体験することで、矢作川への導入の検討や導入に至るまでの課題について理解を深めることを目的としました。

【河川における竹林の拡大と対策の現状】我が国の河川はダムなどの治水対策によって、流域市民の安全が確保されてきました。一方で、それらの治水対策は、土砂の運搬の鈍化や高水敷の安定化等をもたらしました。高水敷の安定化は、植物の遷移に拍車をかけ、樹林化は全国的な問題になっています。とりわけ、西南日本の暖温帯地域では、マダケやモウソウチク等の竹林が繁茂し、河川の流下能力、生物多様性の低下、景観の悪化が課題となっています。竹は、地下茎を形成して拡大するため、伐採を繰り返しても、なかなか撲滅には至らず、財源的な問題から抜本的な解決に至っていないのが現状です。

## ◆主な活動内容

### 1：竹の工芸と竹いかだ



- 竹に文字を掘った「竹灯籠」は、中に光源を設けることで、幻想的な夜景を演出します。
- 竹いかだは適度なスリルがあり、子どもからお年寄りまで楽しめると思われました。水面を叩く音は圧巻でした！

### 2：竹炭づくり・竹ボイラーによるお風呂&シャワー



- 無煙炭化機、無煙竹ボイラー（株式会社モキ製作所）による竹炭やお風呂を見学・体験しました！
- いかだで活躍した竹も老朽化すれば炭になります。放棄竹林の持続的な資源化ループを学びました！

～おわりに～

今回は、天竜舟下り株式会社の皆さんの厚い『おもてなし』のお陰で、放棄竹林の活用方法について理解することができました。矢作川でも活かしたいという動きが出てきました！

## 今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、10月13日（金）～14日（土）岡崎市にて開催します。

## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、事務副所長 春日井  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 調査係長 服部

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。

